

ゲレンデに
帰ろう

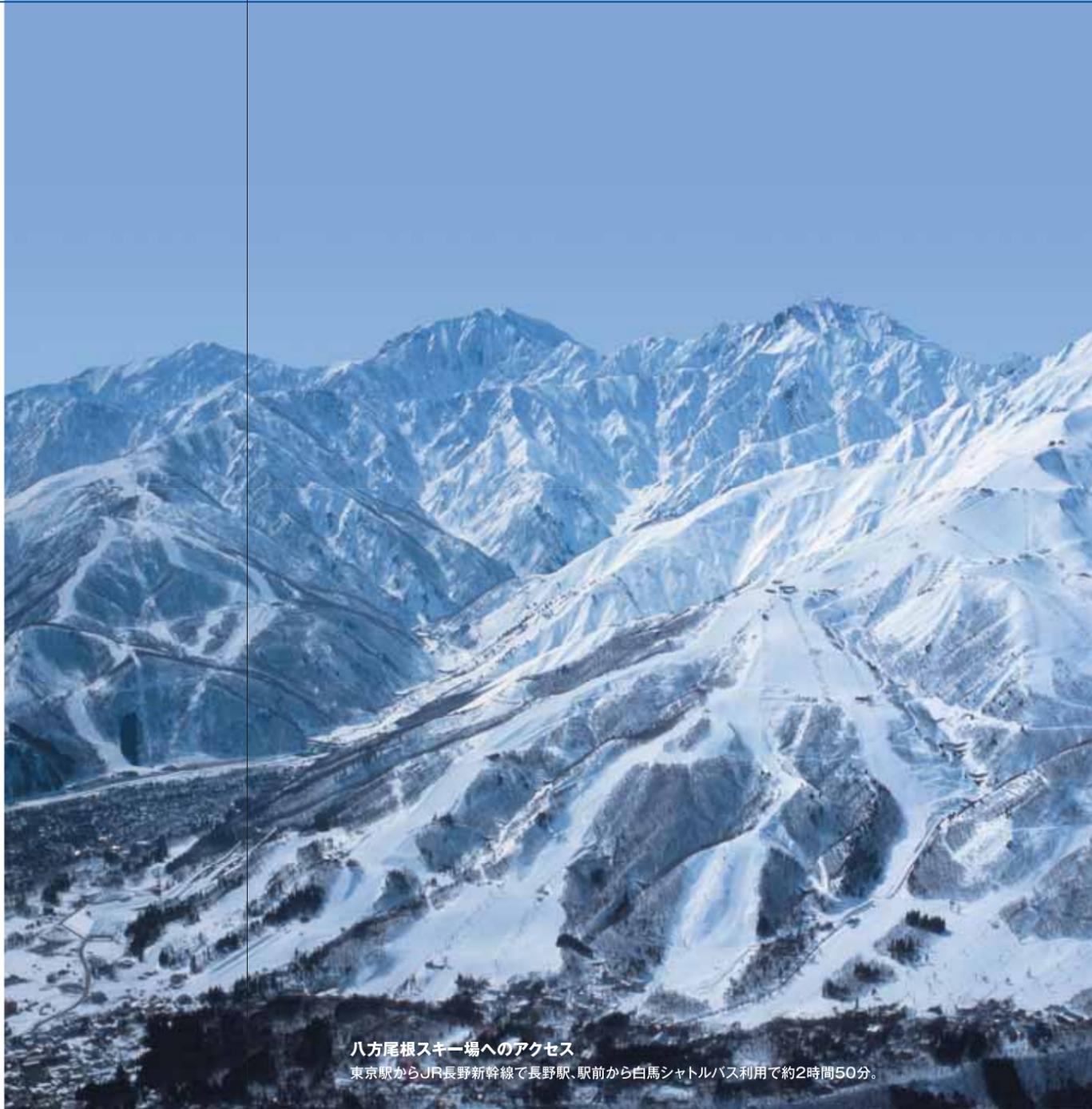
大人がはまる「スキー旅」。

乗り物を乗り継いでスキーに行くのは、半分は旅に出るのと似ている。それならスキーに旅の気分をプラスして計画を立ててみよう。年を重ねたいまなら、料理や温泉、観光地巡りの愉しみがスキーをさらに盛り上げられる。

思い出話と駅弁が電車旅を面白くする。

スキーと一緒に旅行を楽しむ計画は、旧友たちと好きなゲレンデを披露し合う何気ない会話から始まった。いつしか話は盛り上がり「その土地ならではのうまい料理や酒もい」「周辺の見どころにも行きたい」など自由勝手な意見交換の場に。そこには、スキーをしながら愉しめる冬の旅を見つけた仲間の姿があった。

さて当日は夫婦同伴で長野新幹線に乗り込んで出発。車内では青春の思い出話に花を咲かせながら、電車旅の醍醐味である駅弁に舌鼓を打つ。そんな心温まる時間を過ごしていたら、隣



八方尾根スキー場へのアクセス

東京駅からJR長野新幹線で長野駅、駅前から白馬シャトルバス利用で約2時間50分。

に座っていた妻が「雪景色だわ」と車窓の向こうを指差した。舌と目が同時に喜ぶひとときに、誰もがいい旅になる予感を覚える。到着を知らせる車内放送に、心が弾んだ。さあ、もう少しで八方尾根だ。

風を切って滑る爽快感に、あの頃の自分を思い出す。

20年ぶりのスキーなので、はやる気持ちを抑えきれず八方尾根スキー場に向かうと、想像よりも上質な雪が積もっていた。まるで私たちを歓迎しているかのように、自然と笑みがこぼれる。早速リフトに乗り込み、山頂へ。徐々に空気が澄んでくるこの瞬間は、

昔と変わらず気持ちを昂ぶらせる。

山頂に着き雪山の絶景を満喫して早くも観光気分を味わったあとは、それぞれが少しずつフォームを思い出しながらマイペースで滑り降りる。長いプランクをそれほど感じなかったことに自信を覚えた私と妻は、せっかくだからとスキーヤー憧れのコースへ。パウダースノーを浴びながら風を切って滑る爽快感にひたり、あの頃の自分に戻れた気がした。

温泉や料理だけでなく、冬だけの粋なものでなく。

久しぶりのスキーをたっぷり楽しんだあとは、今宵の宿「五龍館」へ。し

ばし部屋でくつろいだあと、お待ちかねの温泉に足を運ぶ。女性陣が妙に興奮しているのは、この温泉がお肌をすすべに導く美人の湯として知られているからだ。浸かってみると、なるほど肌あたりがやわらかい。湯加減もほどよく、体の芯から温まり心までじんわり癒される。あまりに気持ちよかったたので、旧友と明日の朝も入る約束をして宴会場に向かった。

テーブルで迎えてくれたのは、新鮮な地場の食材を使った多彩な創作料理。湯上りにビールで乾杯というお約束の儀式から宴会が始まり、スキーを楽しんでいた時とはまた違うリラッ

クスした表情を誰もが浮かべている。尽きない話題は、この宿自慢の屋外バーへと持ち込まれた。そこは、かまぐらのなかでおでんをつまみながらお酒が飲めるといふ正に冬だけの粋な空間。「大人の楽しみ方だな」と誰かが言い、私たちは贅沢な時間に酔いれた。

翌日も心ゆくまでスキーを満喫しよう、宿が用意してくれた無料送迎バスに乗りゲレンデへ。徒歩で行ける距離でも、こんな気配りをしてくれるとうれしい。午後は少し早めに現地を発ち、冬の長野の観光地に足を伸ばして、予定通り旅情をたっぷり満喫する。帰りの新幹線のなかでは、隣から心地よさそうな寝息が聞こえてきた。スキーだけでなく、旅行まで欲張った今回の計画。みんなの幸せな顔は、もう次のスキーの旅に思いを馳せているかのようだった。



地元を中心に毎朝日本各地から届く野菜や魚など新鮮な旬の素材を使い、やさしい味わいに仕上げた創作和食料理。どれも舌がとろけるほど美味だ。



全国トップレベルの強アルカリ温泉で天然の石鹸のような肌触り。水の粒子が大変細かいため、お風呂上りの素肌がとてもめらかに。



20:00~21:30の時間帯に催される「かまくらバー」。5名様以上(お1人様¥1,500)で、代わがわる「かまくら(写真後方)」に入りながら飲食を楽しむ。



ロビーラウンジから標高3,000m級の北アルプスを一望できる「ホテル五龍館」。アットホームな接客とチェックイン前とアウト後に温泉に入れるなどうれしいサービスが魅力だ。住所:長野県北安曇郡白馬村大字北城3353 TEL:0261-72-3939

JSP THE ASSOCIATION OF JAPAN SKI PROMOTION

提供:日本スキー産業振興協会
<http://www.jaspo.org/SKI/01index.html>

●別冊「旅カタログ(遊)」の5ページに、「大人の休日倶楽部ミドル」会員におすすめのスキーツアーを掲載していますのでご覧ください。